

アンケート結果報告について

地域やる気支援補助金制度が開始され 3 年が経過することから、選考方法について住民自治協議会の意向を調査するため、平成 24 年 10 月にアンケートを行った。結果については、以下のとおり。

1 アンケート 1

関係者を含む多くの市民の面前で選考を行うことで、公明正大な選考とするとともに、他地区の取り組み等を見聞することで住民自治協議会の意識高揚も図れることから公開選考としていますが、今後も選考方法は「公開選考」でよいと思われませんか。

結果集計 32 地区のうち 26 地区が回答

賛成：22 地区

反対：2 地区

その他：2 地区

<回答抜粋>

賛成意見

- ・他地区の取り組みを直接聞くことができ、今後の活動の参考とすることができる。また、公開による選考は住自協として十分に検討した事業を申請する効果があると思われる。
- ・書類審査だけでは、伝わらないこともあることから「公開選考」が良い。
- ・公明正大な選考ができ、他地区の取り組みや、やる気を感じることができる審査に臨むにあたり、予算や活動内容を具体的に構築でき関係者各自の意識も高まる。

反対意見

- ・今までのやり方では、役員の負担が大きいうえ、プレゼンテーションのやり方により差がでてしまう。
今後は書類選考のみで選考すべきである。必要であれば選考委員会で聞き取り調査を行う。
- ・書類選考で選考しても、ホームページ等で内容を公開することができるので十分に公正が保たれると思われる。

<市としての考え方>

公開での選考について、多くの賛成意見をいただいたことから、これまでどおり、**公開での選考**とします。

調査により、公開選考の場を他地区の取り組み・状況・やる気や熱意を見聞

し、今後の活動への参考にできるよい機会であると捉えている地区が多いことが分かりました。

一方、いただいた意見にもあるように、書類の作成、発表準備などについては、過度な負担とならないよう、より利用（活用）しやすい制度となるよう今後も制度の見直しを行っていきます。

2 アンケート 2

交付年数制限の撤廃により、申込み地区数の増加が予想されます。

申し込み地区数にもよりますが、場合によっては選考時間の延長や、発表時間の短縮をせざるを得ないことも想定されます。しかし、選考を複数日とすることは選考委員はもとより、関係者の負担となることから、これまでと同様、1日での選考としたいと考えていますがどう思われますか。

結果集計 32地区のうち25地区が回答

賛成：19地区

反対：1地区

その他：5地区

<回答抜粋>

賛成意見

- ・複数日とすることで、関係者の日程調整等複雑になることが考えられる。
- ・選考は1日で行った方が良いと思う。選考時間も短縮されたら、短縮されたなりの発表を各地区が考えるので、それほど問題ではないと思うが1地区で複数の申請がある場合は、それなりに考慮した方が良いと思われる。

反対・その他意見

- ・適正な選考に必要な時間をきちんと確保してもらうことが必要。日数については、その結果で止むを得ないと考える。
- ・わずか数分のプレゼンテーションのみで判断されてしまうので、もっとプレゼンテーションの時間を長くするか、事前にヒアリングを行うなど、事業内容について十分に認識した上で選考してほしい。

<市としての考え方>

関係者の負担も考慮し、選考については1日で行う旨のご意見を多くいただいたことから、**1日での選考となるよう日程を調整する**方向で進めます。

なお、日程や発表時間などについては、応募の地区数によって調整が必要となりますが、できるだけ発表時間の確保をするよう努めます。